京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター主催
2024 年　第 22 回ラテンアメリカ教養講座

アフロ・ラテンミュージック on Friday Night

日時：２０２４年６月７日より毎週金曜日（全４回）18：00～19：30
会場：京都外国語大学１号館７階小ホール/9 号館７階インターナショナルホール
後援：京都ラテンアメリカ文化協会
※申込不要・入場無料

ラテンアメリカの音楽には様々なジャンルがあります。一見、歴史的・文化的にアフロ性（黒人性）の影響を受けていないと思われるラテンアメリカの国や地域においても、アフロ性の音楽のリズムやリリック、歌唱方法、楽器がラテンアメリカの他の音楽的要素と交わることで、別の音楽ジャンルが形成されました。今回の教養講座ではマヤ、ガリフナ、レゲトン、フォホーをテーマに、実演を交えながら（第１回と第４回のみ）、来場者の方に楽しんでいただこうと企画しました。

第１回　６月７日（金）　会場：９号館７階インターナショナルホール
「マヤ・ポピュラー音楽と西洋音楽」　（レクチャーとピアノによる実演を実施）
滝奈々子（京都市立芸術大学芸術資源研究センター非常勤講師・ピアノ奏者）

グアテマラのマヤ先住民音楽と聞いてどんな情景を浮かべるでしょうか？シャーマン、マリンバ、ハープの音色？ブラスバンド？しかし、植民地時代に持ち込まれた西洋音楽教育やラテン音楽などの影響をうけております。またレゲトン・ラップというカリブ・アフロ音楽の影響もみられます。そこで、グアテマラの音楽を映像と実演から探ります。

第２回　６月１４日（金）　会場：１号館７階小ホール
「ガリフナ音楽にみられるアフロ性」
冨田晃（弘前大学准教授・ラテンアメリカ研究センター客員研究員）

ガリフナは、ホンジュラスをはじめとする中米諸国のカリブ海沿岸に暮らす民族です。キリスト教、シャーマニズム、祖先崇拝の宗教観のもとアマゾン先住民、西アフリカ、ヨーロッパと、異なるルーツの音楽を混淆させて独自なものにしています。

第３回　６月２１日（金）　会場：１号館７階小ホール
「世界に広まるレゲトン革命」
Takeuchi081（Sonidero Tokio・Ti Punch　）
牛島万（京都外国語大学教授）

世界に広まるラテンアメリカ発ポピュラー音楽、レゲトン。時にそのセクシャルなイメージが賛否両論をよんできたジャンルでもあります。歴史や音楽的な特徴など、カリブ音楽の一端としての側面に光を当てることで多角的に紹介します。

第４回　６月２８日（金）　会場：９号館７階インターナショナルホール
「ブラジル音楽 Forró とダンス」　（レクチャーと希望者参加型のダンスレッスンを実施）
ニウタ ジアス（上智大学准教授）

音楽およびダンスとしてのフォホーについての講義です。群馬県内のブラジル人コミュニティを例に挙げ、フォホーを日常生活の一部だけではなく、ブラジルの文化的なアイデンティティの観点から分析します。

●お問い合わせ●
京都外国語大学ラテンアメリカ研究センター
〒615-8558　京都市右京区西院笠目町６
TEL: 075-925-6853　E-mail: ielak@kufs.ac.jp
https://www.kufs.ac.jp/ielak/index.html